1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100715		
法人名	マザーレイク株式会社		
事業所名	グループホームマザーレイク	1階	
所在地	滋賀県大津市黒津1丁目6-18		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-shiga.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570100715&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成22年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが、ずっといつまでもその人らしく暮らしていける様支援していく事。慣れ親しんだマザーレイクで、最後の時を迎えられる終末ケアを掲げている事。また地域の方連との交流を深めてマザーレイクを理解し受け入れてもらえる様努力し続けると共に、こちらからの積極的な地域への参加も行っていきたい事。多目的ホールをそのような場の一つとして手芸教室・体操教室の開催、また掲示板を設置し、こちらからの情報を提供するだけでなく地域の方にも利用して頂ける様働きかけている事。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営者、管理者、職員のチームワークで、一体となって運営にあたっており、利用者ができる限りこれまでの生活を継続しながら安心して暮せるようにサービスを提供している。介護日誌を細かく丁寧に記録しており、家族の面会時にはこれをもとに会話している。地域や近隣との関係を深める努力を積み重ね、多目的ホールを核とした地域住民との相互交流の深まり、広報掲示板の新設、地域貢献としての研修会など前進がみられる。終末期ケアの体制が確立してしており、利用者と家族の安心、信頼に応えている。防災対策は消防署への自動警報やスプリンクラーなどハード面だけでなく地域の協力や救命訓練の継続実施などソフト面も充実してきている。職員の指導育成制度が充実していきやすい、働きがいを与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・リビング・相談室等に掲示し、常に認識し、実践につなげている。	「一人一人が自分らしく暮らしていける」の基本的な理念を作っており、会議の都度意識の共有を図っている。地域の一員としての関係を深めていこうとする努力を継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	手芸教室・体操教室に自主的に参加し、地域の方たちとの交流に努めている。	多目的ホールでの手芸、体操教室へ地域住民の参加が広がり、利用者、職員との交流が深まった。地域の人のために通りに面した屋外に広報掲示板を設置し催し物や便り等を掲示している。自治会には未加入である。	事業所としての自治会参加を目指して引き続き地道な努力を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、研修して欲しいとの希望を受け、計画、実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2か月の開催。その中で活動報告や近況を報告し、意見交換をしている。	包括支援センター、ボランティア、家族を含め住民参加もあり、幅広い会議になっている。自己評価、外部評価の報告、改善の場としても機能、地域貢献とし認知症研修の計画も話し合っている。直近は年4回の開催である。	7月以降は2ヶ月に1回開催してきているがこれを継続し年間6回確実に開催して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があれば電話で聞いたり、訪問している。	大津市の介護福祉課とは随時、接触を深めている。市外在住者からの利用相談にたいする打診、看取り加算の質問、10月の指導監査の打ち合わせ、介護相談員の受け入れ等の相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はいつでも自由に入出入り出来るように施錠はしていない。身体拘束をしないケアが出来ている。研修も実施している。	利用者の人権や身体拘束の研修を月1回の全体ミーティングで実施している。広い中庭へは自由に入出入りできるように玄関の鍵は掛けていない。門扉は道路の先が崖のため安全上ロックしている。利用者の外へ出たい気持ちを常に見守る姿勢で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見逃されない様に身体チェック等注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修があれば参加を促している。しかし関心が薄く理解している職員は少ない様に思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で意見や要望を聞く機会を持っている。家族様が来られた時は日誌を見てもらったり定期的にお便りを出している。	双方向のコミュニケーションに努力し、毎月利用者状況の報告書、4ヶ月に1回「マザーレイク便り」を担当者から送付している。意見、苦情については全体会議や運営推進会議で検討改善し、フォローするよう努力している。	あまり面会に来てもらえない家族については、毎年の契約更改時に出席を依頼するなど事業所側からの働きかけを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、個人面談等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、又反映させている。	毎月の全体ミーティング、食事ミーティングには全員が参加している。年2回の個人面談では各人の目標設定と評価とともに、意見や希望や提案を聞く機会を設け、サービスの向上や働きがいに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修(全体ミーティング・出前講習等)の実施。レベルに応じた研修が必要かなと思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との合同で交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の情報を家族様等から聞き又、本人からの声も聞きながら、安全・安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からの不安・要望等を聞き、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様が必要とされている支援(受診等)の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護するのではなく、例えば洗濯干しや食器洗いなど、出来る人には共にしてもらったりする努力はしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の来館時に日常生活の様子を伝えたり今後の相談をしたりしながら関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や知人が来てもらいやすいように努めている。手紙や葉書を出す援助をしている。	近所の方、知人の訪問で交流が深まるよう、場所の提供や環境作りをしたり、今迄利用していたお店への外出支援をしている。携帯電話や固定電話を利用して外部との交流がある人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して時々席替えをしたりゲームに誘ってみたりして利用者同士が関われる機会づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の相談や情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族様の希望を聞きなるべくそれに添えるように取り組んでいる。	口数の少ない人は留意しゆっくりと時間をかけ聞き出している。これまでの暮らしや経歴を把握できる限り沿えるよう努めている。介護日誌には気付いた事を記録し共有している。昼間、夜間色分けした記録は見易い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族様等から本人の今までの生活や生活環境の情報を聞き出来るだけそれに添えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の介護記録などで心身状態や日々の過ごし方を記録し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月のカンファレンスにおいてケアプランの見直しや、アセスメントを基に本人にとって何が必要なのかを話し合っている。	本人、家族、医師の意見を参考にして介護計画を作成し、家族の同意を得ている。毎月のカンファレンスと日々のモニタリングで本人の変化に柔軟に対応し、3か月に1回見直している。家族には半年に1回同意を得ている。	3か月毎の見直しの結果についても、都度家族の了解を得て欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入、スタッフ間での申し送り等情報を共有しながらケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応して出来る範囲でサービスを提供するように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院(出張)・踊り三味線・手品等ボランティアを積極的に受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間医療連携体制をとり看護師との連携も確保している。	本人や家族の要望に応じかかりつけ医の受診の送迎をすると共に、家族とも協力して同行し情報を共有している。なお提携のくろづ外科の定期往診は2週間に1回である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師に相談し個々の利用者が受診出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供や情報交換をして出来るだけ早く退院出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様の思いを受け止め、都度話し合いを持って対応にあたっている。	契約書に重度化した場合の指針を明記している。状態の変化に応じ早い段階から医療機関、家族と相談し、入院の是非、苦痛緩和、看取りの受け入れ方針を確認し、家族と別途契約する。ターミナル用ベッドも保有しており、交替での見守り体制が取れるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は実施しているが、全ての職員が確実に実践力を身につけられるように努力していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練は実施出来ている。又地域の協力を得られるように地道に努力はしている。	消防署の指導で年2回の避難訓練を実施しているが近隣の人の参加はできていない。マニュアルを整備している。本年10月スプリンクラーと消防への自動警報装置を設置した。AEDの取扱訓練も年1回実施している。	緊急時の協力について経営者から近隣住民にお願いしているが、避難訓練に参加して貰うことも働きかけて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフそれぞれに理解はしているものの つい、利用者の動きを制止するような言葉 かけをしている事がある。注意をし合える チームケアが必要。	年長者には人生の先駆者とし敬意を払い親 に接するような気持ちで触れ合うよう努めて いる。プライバシーの保護について研修を行 い、個人情報についても守秘義務を果たすよ う取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	出来る限りの支援はしている。自ら訴える 事の少ない利用者に関しては仕草や表情 で読み取ろうと努力はしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースでケアされている事が多い。 その日その日の業務に追われているのが 現実である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	個別的な好みの支援は殆ど出来ていない。 選択出来る支援・工夫が必要である。意思 表示の出来ない人への支援が特に改善す べき点である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	食事の準備は殆ど調理担当が中心であ る。出来る事は極力声かけしているがとて も回数が少ないのが現状である。食事が楽 しめる様外食や、特別メニューなどを取り入 れたりしている。	メニューと食材の手配を委託しているが調理 は職員がし、配膳等は利用者も手伝って いる。特別メニューやイオンフードコートへの外 食も喜ばれている。職員は各テーブルに入り 話を聞いたりさりげなく介助に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食べる量、栄養バランスは考えられており 支援出来ているが、水分量は接種を促すも 難しいのが現状ではある。しかし飲みやす いホットミルクや好みのコーヒーを出すなど の工夫はしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	全員に徹底されていない。特に朝夕の食後 は対応しきれていない。就寝前のケアは出 来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じた排泄・トイレ誘導の支援は出来ている。出来る限り布パンツで過ごせるように心がけている。	自尊心を傷付けないよう利用者の様子から察知しさりげなく誘導して気持ち良く排泄できるように支援している。失禁の場合も羞恥心や不安を軽減するよう気配りしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルト接種と水分摂取及び体を動かす事を常に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めていない。が、本人の希望にはなかなか応じられていない。個々にそった時間を提供する事は難しく午後からの決まった時間に提供している事が現状である。	入浴管理表により希望時間とサイクルを管理している。体調もあるが4~5日サイクルの人もある。機械浴の利用者(2名の介助必要)が7人あり、恐怖感を持つ人には不安を和らげるよう声掛けしている。	人手の問題もあるが、週2回以上は入浴できるよう工夫を望む。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状況に合わせて居室やソファで横になる事をすすめている。各居室の明かりにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は個人ファイルに入れて職員が確認出来る状況にある。しかしスタッフの理解度には個人差があり正確に把握することに努めたい。変化については常に看護師と連絡・報告している。飲み忘れ・名前確認は常にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力に合わせて日々の中でのお手伝いや自立した活動が出来るように支援している。煙草やビール等自宅での生活スタイルを継続出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	アクティビティの外出を含め個人や家族との外出も支援出来ている。5月の動物園へもボランティアや家族の協力で実施出来た。帰宅願望の強い方にもその時々によって対応している。	日常の散歩、近くへの買物、床屋等外出支援をしている。外気に触れた時は表情が変わり喜んでもらえるので時間を工夫して対応するよう努力している。5月の京都動物園は車6台で家族やボランティアの協力で実施でき好評であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状自分で買い物する人はいないが、自由にお小遣いを持つ人や、スタッフと一緒に買い物に出かける事も都度可能な状況ではある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフが電話かけて繋いだり、手紙やはがきを書いたり出したりの支援はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雑音であったり、大きな物音、職員の話す声には気をつけるように配慮してはいる。又季節の花々を生けるなどしている。	共用場所全て清潔で季節の花を活けたり利用者手作りの作品が掲示してあり和やかな環境となっている。利用者はソファで寝転んだり、テレビを見たり、数人で語り合ったりしている。別棟の多目的ホールも利用者と地域とのふれあいの場として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファで過ごしたり自分の居室に自由に入出入りして過ごしてもらっている。又玄関先にいくつか椅子があり思い思いに利用出来るようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前からの使いなれた家具を置き、自宅にいる時の様に落ちついて過ごせる空間づくりを心がけている。	本人が各々馴染みの物を持ち込んで好みに合わせレイアウトをしている。テレビや固定電話を置いている人、机を持ち込み趣味、特技の場としている利用者もあり本人本位の落ち着いた暮らしができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように示したり、それぞれの居室の入り口には表札をかけている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練やAEDを使った救命訓練は定期的を実施出来ているが近隣住民との緊急災害時の協力体制が整っていない。	火災や地震等の緊急災害時における近隣住民の協力体制を確立する。	①日頃から近隣住民との関係を、今まで以上に築くことに努める。②年2回の避難訓練の参加を呼び掛ける。	12ヶ月
2	2・20	多目的ホールでの手芸教室や体操教室を軸に地域住民との交流は深まりつつあるが、利用者との接点・関係をもっと積極的に増やしたい。	利用者と地域住民との交流を深める。	①手芸教室・体操教室に一人でも多くの利用者が参加出来る体制を整える(ボランティアの手を借りる等)②地域のイベントにもこちらから積極的に参加する。	12ヶ月
3	45	入浴日を決めず、毎日入浴可能を実施しているのにも関わらず、介護度が高い為、人手と時間を要し能率が悪い。全員が週に2回以上利用出来るようにしたい。	全員が週に2回以上ゆっくり入浴出来るようにする。	①午前中の空いた時間を有効に使う。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。